

新町家のすすめ (案)

〈京町家の知恵を生かした住宅を建てるためのガイドブック〉

このガイドブックは、京町家の知恵を活かした住宅（新町家）を建てるための考え方についてまとめたものです。

伝統的な京町家の知恵や、新町家の5つの指針、指針を達成するための工夫について、事例を交えながら解説しています。

京都市内で住宅を建てる建築主の方をはじめ、設計者や住宅供給事業者の皆様など、多くの方にこのガイドブックをご活用いただけると幸いです。

目 次

1. 新町家とは

京都における京町家の意義
京町家を新しくつくること
新町家の5つの指針
コラム 1

2. 新町家デザインガイド

新町家デザインガイドの構成
指針 1 まちに暮らす
指針 2 場所になじむ
指針 3 四季や自然を楽しむ
指針 4 大切に使う
指針 5 和の技術を感じる
計画フロー
コラム 2

3. 新町家設計事例

- 3-1 設計事例①
伝統的な空間をとり入れたケース
- 3-2 設計事例②
現代的な意匠とするケース
- 3-3 設計事例③
敷地に余裕があるケース
- 3-4 設計事例④
集合住宅に適用したケース

参考資料

検討部会について



1

新町家とは



京都における京町家の意義

京町家は、それぞれが独立した住宅でありながら、それらが連担することで、洗練され、落ち着いた京都の町並み景観をつくってきました。

また、外観だけでなく、四季折々の自然との共生や地域との共存など、個性豊かで先駆的な生活における工夫や知恵などを継承・発展させてきました。

つまり、京都において京町家は、”町並み景観を構成する基盤”であるとともに、歴史的に培われた”生活文化の基盤”となっているのです。

このように、京都にとって貴重な財産である京町家ですが、戦後、多くの京町家を取り壊されており、年間約2%の京町家が滅失し続けています。

京町家を次の世代に着実に引き継いでいくためには、現在残されている約40,000軒の京町家の保全・継承に取り組むとともに、現在のライフスタイルに合った新たな京町家を創出していくことが求められます。

<参考>

「京町家」の定義

京町家条例※においては、建築基準法が施行された昭和25年以前に建築された木造建築物で、格子、通り庇、通り庭、奥庭、隣地に接する外壁など、伝統的な構造及び都市生活の中から生み出された形態又は意匠を有するものを「京町家」として定義しています。

※京都市京町家の保全及び継承に関する条例



京町家を新しくつくるといふこと

京町家を新しくつくるといふことは、**町並み**景観を守ることを通じて、京都に暮らすものとしての誇りやアイデンティティを次世代に引き継ぐ行為であるといえます。

また、京町家が伝える**生活文化**には、現代においても評価すべき共存の精神が息づいています。建具の入れ替えといった季節に応じた暮らし方や生活の知恵だけでなく、自然と共存する精神や、集団生活における共存の感性（パブリック・マインド）を育むことが期待されます。さらに、木組みや土壁といった伝統的な技術、自然素材を用いることで、温かみのある居住空間を作りだすとともに、**伝統技術・技能の継承**につながります。

これらの京町家の知恵を、現在の生活様式に取り込むことで、より京都らしい、充実した暮らしの手がかりになるのではないのでしょうか。





新町家の5つの指針

「生活文化の継承と発展」「趣のある町並みの形成」「伝統技術・技能の継承」という3つの目的を達成ため、「京町家の特性を生かした、京都のまちに将来にわたって相応しい住宅」を目指すものが「新町家」です。

伝統的な京町家を単純に模倣するのではなく、京都の長い歴史のなかで培われてきた京町家の知恵を受け継ぎながらも、現代の生活ニーズに沿った、新しい京都の住宅です。

設計する際に重視すべき項目を、以下の5つの指針として整理しています。

指針1 まちに暮らす

京都のまちでは、建物と庭がともに連担することで通風や採光を確保し、高密度居住が可能なまちがつくられてきました。

隣地の状況、町並みを踏まえて、建物配置や開口部の位置、軒下等のまちと緩やかにつながる仕掛けを計画することで、密度の高い地域社会における共存の精神を継承すること

指針2 場所になじむ

都心から郊外まで、京都のまちは、様々な地域特性に彩られた多様な景観が魅力です。例えば、京町家が残る地域では、既存の京町家と馴染むようにするなど、地域特性や歴史を踏まえて設計することで、場所に馴染む住まいとすることができます。



指針 3 四季や自然を楽しむ 生活文化

京町家では、奥庭や坪庭といった自然を感じることもできる空間を住まいに取り込むことや木・土壁などの自然素材を使うことで、都心においても潤いのある暮らしを実現しています。

また、季節の飾りや草花が飾れる場所を設けることにより、四季や伝統行事を楽しむことができます。

指針 4 大切に使う 生活文化

京町家には、「もの」を大切にする精神が息づいています。

住まいそのものから、建具や家具に至るまで、大切に長く使い続けられる工夫をすることで、愛着のある住まいを次世代にも引き継ぐことができます。

指針 5 和の技術を感じる 伝統技術

伝統構法をはじめ、畳一つにとっても京町家には、長い歴史の中で培われた技術・技能が詰め込まれています。これらを現代の建物に取り入れることで、京都の文化を継承することができるだけでなく、より誇りの感じられる住まいとすることができます。

コラム1 タイトル

高田先生
(総論, 生活文化の継承について)

木村棟梁
(伝統技術の継承について)



2

新町家
デザインガイド

新町家デザインガイドの構成

各指針のねらいや伝統的な京町家の知恵、指針を達成するための工夫について解説しています。

新町家設計の考え方

デザインガイドに記載された指針を実現するための工夫や解説を参考にしながら、設計者の柔軟なアイデアで、指針をどのように設計に反映するか、考えてみてください。

また、昭和25年以降に建築された住宅の改修を行う際にも、新町家の5つの指針をぜひ、取り入れてみてください。



指針を達成するための工夫

- 1-1 | 隣との連担に配慮する
- 1-2 | 開口部の位置など
プライバシーに配慮する
- 1-3 | まちと緩やかにつながる
仕掛けをつくる



指針を達成するための工夫

- 2-1 | 地域特性を踏まえた
デザインにする
- 2-2 | 町並みのスケール感や
昔ながらの地割に配慮する
- 2-3 | 設備機器も町並みに調和
させる



指針を達成するための工夫

- 3-1 風や光, 自然が感じられる ……
庭を設ける
- 3-2 季節の飾りや草花が飾れる場 ……
所を設ける
- 3-3 建物内の風通しや日射をう ……
まくコントロールする
(深い庇や格子, すだれを用いる等)



指針を達成するための工夫

- 4-1 メンテナンスを ……
しやすくする
- 4-2 木や土壁等の ……
自然素材を使う
- 4-3 経年変化を楽しめる ……
工夫をする
- 4-4 多様な使い方が ……
できるようにする
- 4-5 古建具や古材の活用 ……
も考える



指針を達成するための工夫

- 5-1 外観に伝統技術・技能を ……
活かす
- 5-2 内装に伝統技術・技能を ……
活かす
- 5-3 伝統構法での新築も考え ……
てみる

指針 1 | まちに暮らす

背景 ・ ねらい

京都のまちにおいては、日常の門掃きや地藏盆などの年中行事など、共同で物事を行う中で、周囲に気を配りながらも自立を尊重し、多様な価値観を認め合うという「異なる価値観の共存」を可能にする風土が生み出されてきました。

京町家が建ち並ぶまちを歩いていると、ゆるやかに統一された美しい町並みが印象的です。通りから見えない「奥ク」と呼ばれる奥庭は、お隣や裏の奥庭と連続することで、低層高密な京都のまちなかに大きなオープンスペースを作り出し、各戸に自然の風や太陽の光を効果的に取り入れるとともに、火災時の延焼を防止する役割などを果たしています。こうしたまちの連続性は、京都の先人達が、人とのふれあいやまちとの交流を前提にまちづくりを行ってきたことによるものです。

郊外部においても、地域の状況に応じ、道路からのセットバックや、庭木や生垣の配置等により、良好な住環境のまちを実現しています。

住宅を建てる際にも個人の権利が重視され、まちのつながりが軽視されがちな現代ですが、京都の先人達が築いてきた家とまちとの関係をもう一度見直し、継承していくことが大切ではないでしょうか。

このことは、京町家に限らず、京都で住むにあたっては、とても重要なポイントです。お隣やお向い、裏のお宅と協調し、互いに心地よく暮らせることを重視して設計してください。まずは、設計前に、敷地周辺の状況をしっかり調査しましょう！

指針を達成するための工夫

- 1-1 隣との連担に配慮する
- 1-2 開口部の位置などプライバシーに配慮する
- 1-3 まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる



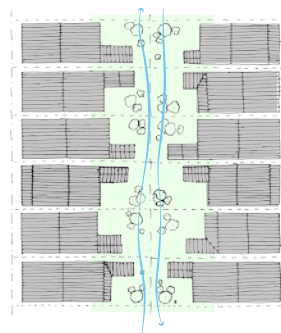
京町家の並ぶ町並みに新築された連続性に配慮された建物

1-1 隣との連担に配慮する

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

通りに面した外壁・隣と連続した庭空間

まちなかにおいては、奥庭をお隣や裏の奥庭等と連続させることで、オープンスペースを作り出し、各戸に自然の風や太陽の光を効果的に取り入れることができます。



敷地奥の庭を互いに連続させることで風の通り道や火災時の延焼防災帯となる

郊外部においても敷地内の建物配置を周辺の建物と合わせることで、通風や日照を最大限生かすことができます。



とりいれかた

隣地との協調に配慮

隣接敷地の建物配置、地域の風の流れ、隣地への日影の影響、眺望を阻害しないかなどをよく確認して、建物や空地の配置計画を考えましょう。

まちなかでは・・・

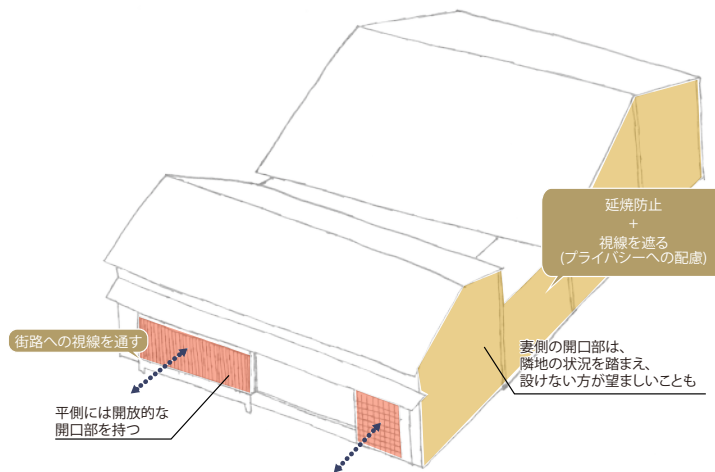


隣地建物の横には建物を、隣地の庭の横には庭を配置するなど、隣地との強調を考えることが重要です

1-2 開口部の位置などに配慮する

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

まちなかの京町家は隣地と外壁が接しており、妻側には開口部がありません。雨仕舞いのほか、延焼防止や防犯性向上といった効果もあります。



伝統的な京町家の開口部

とりいれかた

隣地の状況を踏まえて、窓などの開口部の位置を決めましょう。

その他、次のような点も要チェック！

- 駐車場の位置
- 室外機等の空調設備の騒音・排気
- マンションなどの規模の大きい建物の場合
- 階段・廊下などの騒音対策
- 落下物対策
- ごみ置き場の位置や管理



1-3 まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

軒下の多様な空間

京町家の特徴的な意匠の一つである通り庇の軒下空間は、ある時は雨宿りに、ある時はばったり床几を出して展示や休憩に、またある時は幔幕を張ってお祭りの空間にと、多様に使われ、通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間を形成しています。



軒下空間が連なる

このような、半公共的な空間が、コミュニケーションの場となり、地域とのゆるやかな関わりを生んでいます。



ばったり床机（しょうぎ）
軒下にしつらえられた折りたたみ式の縁台。
店の商品を並べたり、休憩用の椅子として用いられます。



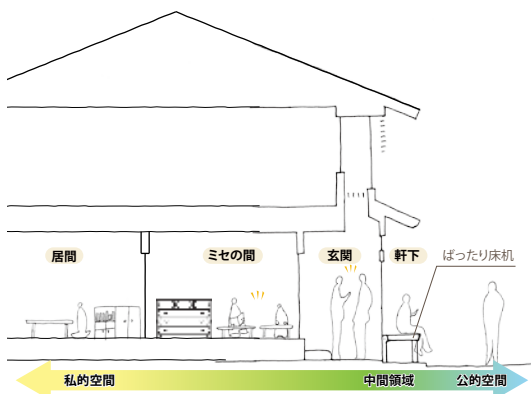
幔幕（まんまく）

内と外を緩やかに隔てる

格子は、道ゆく人からは内側が見えにくく、家人からは外の様子が良く見えるようにできており、柔らかい防犯装置としての機能を持っています。



内外を緩やかに隔てる格子



京町家の段階的な空間構成
通り庭に入ってすぐの場所は、店の一部や応接等に
使われ、来訪者とのコミュニケーションの場と
しての役割も果たしている

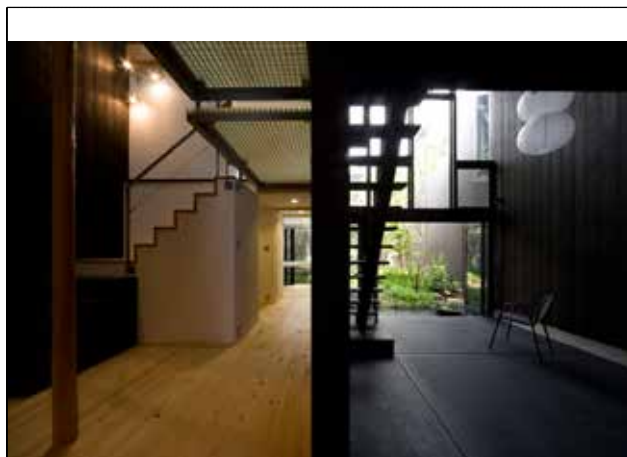
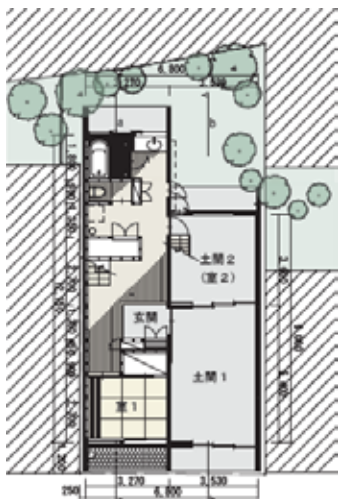
とりいかた

玄関先を多機能に活用

プライバシーを確保しつつ、まちに開いた部分をつくってみましょう。

玄関スペースを広めにとり、腰掛けられる空間を設けるなど、近所づきあいのきっかけの場や、来客時の柔軟な対応ができる場を考えてみましょう。

玄関スペースに広い土間空間を設けた例



土間の楽しみ方

建物の外と内の中間的な空間である”土間”は、現在の暮らしでも、様々な使い方ができます！

①コミュニケーション空間

ちょっとした接客スペースとして、部屋に上がってもらわなくても良いため、気軽に応接できます。

②趣味の空間

DIYやガーデニングなど、土の汚れが気になるような趣味の空間として、また、子どもやペットの遊び場としても使えます。

③風通し良くする空間

「通り庭」のように土間空間を表から裏まで通すことで、風通しが良くなり、夏の暑さ対策や湿気対策に有効です。

④収納空間

ベビーカーや自転車、濡れた雨具などを置いておくスペースとしても便利です。

地域の行事で活用

地蔵盆などの地域行事に開放できるセミパブリックな空間をつくってみても良いですね。

住宅の前面を地蔵盆など祭事に用いる例



京都市では約8割の自治会・町内会で地蔵盆がおこなわれています！

指針 2 | 場所になじむ

背景
・
ねらい

京町家は一敷地の中に建つ単独の建物でありながら、まちの景観をつくりだす要素となっています。

まちなかでは、家が軒を連ねて、連担して町をつくっていますし、郊外部においては、ゆとりを持って家々が建ち並ぶことで、各地域ごとのまち並み景観を形成しています。

建物の外観は、一軒一軒、細かな違いがありますが、地域のルールを守り育て、守ることにより、全体の調和を乱すようなデザインを避けつつ、洗練された統一感のあるデザインが継承されてきました。

「京都らしい」魅力的な町並みを作り出し、継承していくには、そこに住まう人々の町に対する愛着や誇り、建物や暮らしについての共通のルールが大切です。

新しく建てる建物も、京都の町並みを形作る大切な一要素になります。場所になじむ建物となるよう、地域の建築様式、伝統的なお祭り、これまでの歴史など、その地域の特徴、特質をよく理解し、尊重して設計しましょう。

指針を達成するための工夫

- 2-1 地域特性を踏まえたデザインにする
- 2-2 町並みのスケール感や昔ながらの地割に配慮する
- 2-3 まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる



おちついた路地の生活空間

2-1 地域特性を踏まえたデザインとする

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

突飛な意匠を抑制しつつ、細かな違いで変化を生み出す

京町家は、突飛な意匠を抑制しつつ、棟の高さや格子の意匠など細かな違いにより、変化を生み出し、洗練された魅力的な町並みを形作っています。

まちなかの町並み（例）

通り底

通りに向かって間口いっぱいにはけられた底。軒下は通りと一体的な利用がなされ、通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間として多様に使われています。また、隣と連なることで、統一感のある町並みを生み出しています。



格子

光や風を通しながらも、道ゆく人からは内側が見えにくい、家人からは外の様子が良く見えるようにできており、柔らかい防犯装置としての機能を持っています。

平入りの屋根、通りに面した外壁、隣と連なる通り底、格子等といった要素を共通させつつ、棟の高さの違いや、格子等の建具の様々な意匠により、単調ではなく、変化のある、魅力的な町並みを形成しています。

郊外の町並み（例）



通りに面して塀を設け、建物と塀との間に前庭を設けている町並み



ゆとりのある敷地に、通りに面して石垣・生垣を設けている町並み。まちなかと違って建物は平入でないものも多い。

街道の沿道などにおいては、まちなかと比べゆとりのある敷地に、高塀や格子戸の付いた門等が連なり、前庭からのぞく緑が周辺の山林等と調和する落ち着いた町並みが形成されています。

とりいれかた

地域の特性や歴史を把握する

歴史的に京町家が立地していた地域では、既存京町家となじむよう、平入りや通り庇といった要素を取入れ、連担させるなど、同じ京都市内でも、地域によって、共通する建築要素が微妙に異なるので、その地域の伝統的な住宅の建て方や、共通のルール、どのような特性のある地域なのか、といったことをよく調査しましょう。

その地域の伝統的な意匠をそのまま再現するのも一つですし、伝統的意匠や地域特性を踏まえつつ、新たな解釈をして、現代的デザインでもうまくなじむように創意工夫するのも一つです。意匠設計の腕の見せ所です。

地域の特性・歴史・文化の調べ方

「地域景観づくり協議会」など、まちづくり活動が活発な地域では、その地域の特徴や何を大切にしているかが、計画等としてまとめられていることがあります。

その地域では何を大切にしているのかを知るためにも、特に規模の大きい建物を建てる場合は、計画確定前から地元と対話することが大切です。



「京都市景観情報共有システム」を活用してみよう！
都市計画等の規制内容、文化財や景観の核となる建造物の解説、明治～昭和初期の地図等が見れます

参考になる資料など

- 地域の景観や文化・歴史に関する情報……京都市景観情報共有システム
- 各学区の活動や特色……京都市 自治会・町内会 NPO おうえんポータルサイト内「京の学区案内」
- 路地での計画……「路地保全・再生デザインガイドブック」（京都市のHPから閲覧可）

景観デザイン基準

都市計画に定める建築物の形態意匠の制限については、冊子「建築物等のデザイン基準」にまとめられています。また、規制内容について分かり易く解説した「京の景観ガイドライン」も参考にしてください。

※都市計画で定めている形態意匠の制限については、最低限のルールになります。設計する際には、都市計画のルールを守るだけでなく、地域に相応しいデザインかどうか、是非、考えてみてください。



「建築物等のデザイン基準」「京の景観ガイドライン」は、京都市のHPからダウンロードできます！

2-2 町並みのスケール感や昔ながらの地割りに配慮する

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

短冊形状の敷地割り “うなぎの寝床”

京町家が存する敷地の地割形状は、京都のまちの歴史的な形成過程を物語るものであり、その短冊形状の地割が、通りに面した「表」と、街区の居住環境の調整や延焼防止帯としての役割もある奥庭や土蔵などの「裏」という空間構造を生み出しました。

とりいれかた

適切に分節して圧迫感を軽減する

敷地周辺の町並みを踏まえて、長大な壁面を適切に分節するなど、建物全体のボリューム感や各部分のサイズの比率など、全体のバランスを地域の町並みに揃えるよう努めましょう。

間口を分節している例



うだつを用い効果的に分節

2-3 設備機器も町並みに調和させる

とりいれかた

配置場所で工夫する

町並みになじむよう、建物本体だけでなく、設備機器（室外機、ダクト、給湯器等）にも配慮しましょう。

室外機等を犬矢来や格子で囲って修景する方法もありますが、その場合、機器の効率が低下してしまう可能性もあります。

ファサード側に設置しないなど、できる限り、配置場所で工夫をしてみましょう。

指針 3 | 四季や自然を楽しむ

背景 ねらい

そよ風，木漏れ日，季節ごとの草花，鳥のさえずりなど…人は自然を感じることで，疲れた心が癒され，和やかな気持ちを取り戻すことができます。そして，日本人は昔から自然の中で，自然と一緒に暮らしてきました。

京町家では，うまく自然を暮らしに取り込み，自然と付き合い，四季を楽しむ工夫を重ねてきました。例えば，郊外部で敷地に余裕のある町家では広い庭が設けられていますし，高密度居住のまちなかの京町家であっても，どんなに小さくても必ずお庭が設けられており，そのほんの小さな空間を活かして，風や光，植栽の緑を暮らしに取り入れています。

ただ，昔の伝統的な暮らしをそのまま受け継ぐ，ということでもありません。技術の進歩や時代のニーズに合わせて，新たな技術や考え方をうまく取り入れることも重要です。今の技術では，断熱性・気密性を高めながらも，風や光など自然とのかかわりを感じられる住宅を作ることができます。

新築等京町家では，空調設備などの現代の技術や新しい考え方も取り入れながら，四季や自然の移ろいを楽しめる，省エネかつ快適な暮らしを設計・提案してみましよう。

指針を達成するための工夫

- 3-1 風や光，自然が感じられる庭を設ける
- 3-2 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける
- 3-3 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする



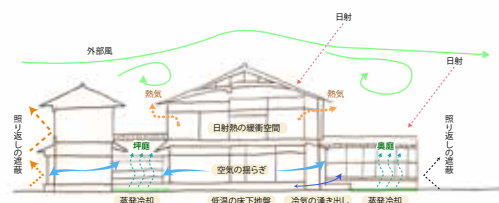
まちなかの自然空間 京町家の坪庭

3-1 風や光，自然が感じられる庭を設ける

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

自然を身近に取り込む

京町家ではどんなに小さくても必ずお庭が設けられてり、お庭の空間を通じて、心地よい風の通り抜けや、まちなかでも自然を身近に感じ、四季の移り変わりを感じることができます。



京町家では、隣の家と庭を連担させることに加え、庭に植栽を施して表の通りとの温度差をつくること、奥から表のまで通り抜けた空間（通り庭や続き間）があること等によって風の流れを作っています。

とりいれかた

風が通り抜けるよう設置場所を決める

道や隣地から風が通り抜けるよう、庭の設置場所を決めましょう。

（指針 1-1 も参考にしてください。）

庭を楽しめる空間を設ける



例えば、縁側をつくると、腰掛けて庭を眺めたり、日向ぼっこを楽しめます。また、部屋と庭（屋外）との間に縁側空間があることで、夏の暑さや冬の寒さを和らげることができます。

落葉樹を植えてみる

落葉樹を植えると、季節の変化が楽しめるとともに、夏の日射遮蔽・冬の日差しの取り込みといった環境調整ができます。



庭のメンテナンスを考える

通り庭のような空間は、庭のメンテナンスのための動線としても有効です。



3-2 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

季節に応じたしつらい

京町家では、四季や行事にあわせたお花や掛け軸等で、玄関や床の間をしつらえ、生活に季節感を取り込んでいます。



とりいれかた

現代的なしつらい方を考える

伝統的なものに囚われず、柔軟なアイデアで飾るものが引き立てられ、部屋に彩りが加わるような仕掛けを考えてみましょう。

手軽なしつらい空間の例

お客様を迎える場所である玄関に、花などを飾ることができる空間を設けておくと、おもてなし空間として演出が可能です。



スペースが無くても、フックやピクチャーレール等があれば、吊り下げ式の花器や掛け軸などを手軽に飾ることができます。

伝統的なしつらいにこだわる

和室をつくるなら、床の間や違い棚といった昔ながらのしつらい空間を設けてみるものひとつです。

掛け軸や置物、生け花など伝統的な和のしつらいが良く映えます。

伝統的なしつらい空間の例



床の間と掛け軸



違い棚と置物

3-3 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

最大限の風通しの確保

京町家では、取り外せる建具、格子、奥から表まで通り抜けた「通り庭」、隣と連担させた奥庭・坪庭などの工夫により、可能な限りの風通しを確保してきました。



坪庭から奥につながる空間

深い軒・庇

京町家の深い軒・庇は、夏は日射を遮り、冬は日差しを取り入れることができます。

これらにより、夏の暑さ、冬の寒さを緩和し、自然との共生を図ってきました。



深い庇

とりいれかた

風の通り道を確保する

地域の卓越風向や近隣の建物配置を踏まえながら、風の通り道を設計しましょう。



風の通り道を設ける

季節に応じた日射コントロール

深い軒・庇のほか、開口部への日射をさえぎるには、格子、紙障子、ブラインド、すだれ等を組み合わせると効果的です。



適切に断熱する

壁・床・屋根・窓などをしっかり断熱することで、夏は涼しく冬は暖かく快適に過ごせます。

※土壁でも断熱材を入れることができます。

温熱環境上のバッファゾーン

縁側やサンルームなど、温熱環境上のバッファゾーンにもなる生活空間を設けると、居住空間の快適性が向上します。

指針 4 | 大切に使う

背景 ねらい

京町家は、維持修繕していくことを前提とした建物であり、容易に修繕することができるように、様々な工夫がされています。また、出入りの大工によって日常的な維持管理が円滑になされてきました。

また、畳や建具などは決まったサイズで作られており、再利用や入れ替えが容易にできます。

環境面からも、「つくっては壊す」というスクラップ&ビルド型から、「いいものを作って、きちんと手入れをして長く大切に使う」ストック活用型へと、考え方を転換していくことが必要です。建築コストが少し高くても、良いものをつくることで、長く使い続けることができ、トータルで考えるとコストパフォーマンスの高い住まいになります。

ちなみに、日本では昔から、長く大切に使ってきたものには、魂が宿ると考えられてきました。「MOTTAINAI（もったいない）」という言葉が世界にも広がっていますが、物を大切にする精神は日本の文化とも言えます。

手入れしながら長く大切に使うことで、思い出が刻まれ、愛着がわきます。そのような大切にされてきたもの、大切にできるものに囲まれる暮らしは、私たちの心をより豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

世代を超えて大切に使ってもらえる建物になるよう、設計してみましょう。

指針を達成するための工夫

- 4-1 メンテナンスをしやすくする
- 4-2 木や土壁等の自然素材を使う
- 4-3 経年変化を楽しめる工夫をする
- 4-4 多様な使い方ができるようにする
- 4-5 古建具や古材の活用も考える



大切に使われてきた収納と一体となった階段

4-1 メンテナンスしやすくする

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

点検・修理がしやすい構造躯体

伝統的な京町家は、柱や梁といった木造の構造部材が化粧在として、外観だけでなく、内部空間にも現れており、腐食した部材は取替え、緩んだ結合部は締め直し、屋根は葺き替え、壁は塗り替える等、構造躯体の修繕がしやすくなっています。



壁の塗り替え

奥庭への動線

京町家では、通り庭の土間空間を通過して、靴のまま直接、庭にアクセスできるため、庭師に入ってもらいやすく、庭のメンテナンスがしやすくなっています。



内部から見える構造躯体



古材を活用した構造

とりいれかた

メンテナンススペースを確保

設備機器・配線の点検、補修が容易にできるよう、メンテナンススペースを確保しましょう。

また、庭のメンテナンスのための動線も考えておくことが有効です。

日々の手入れをしやすくする

手の届きにくい天窓や吹き抜け部の照明等については、手入れの方法を念頭に置きながら設計しましょう。

取替えが容易なつくり

定期的に更新が必要となるものについては、取り替えが容易にできるよう配慮しましょう。



トップライトや吹き抜け

4-2 木や土壁等の自然素材を使う

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

木や土壁の快適な空間

伝統的な京町家は木や土など全て自然素材で作られています。



土壁や珪藻土、漆喰などの塗り壁は、調湿効果があるため、室内の湿度を快適に保ちます



真壁造りのため、木の柱や梁が内部空間に現れており、木の温もりを感じることができます

とりいれかた

肌に直接触れる部分に自然素材を使う

無垢の木や土壁・珪藻土等の左官壁，和紙，い草の畳など，仕上げに自然の素材を使うことで，自然素材の温もりや素材感を感じることができます。また，化学物質による健康リスクが抑えられるとともに，木のもつリラクセス効果などから，健康にやさしい住まいになります。



自然素材の例



ちなみに…

- 地域産材を利用すると，材料輸送時に排出されるCO₂を削減でき，環境に配慮することもできます。
- 木材にはCO₂を吸収して固定する効果があるため，地球環境の観点からも有利です。

4-3 経年変化を楽しめる工夫をする

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

自然素材の味わい

京町家は木や土、石など自然素材で作られていますが、自然素材は使い続けるほど味わいが出てきます。



古くても味わいのある石畳



古くても味わいのある天井



古くても味わいのある水屋

修理の痕跡の味わい

柱の腐った部分だけを取り替える「根継ぎ」などは、古い材と新しい材とが、大工さんの技術でうまく組みまれており、ひとつの味わいになっています。

とりいれかた

経年変化も味になる素材を使う

仕上げ材には、傷や経年変化も味になるような素材を使ってみましょう。

経年変化により味わいの出た素材の例



木材



石材



金属

4-4 多様な使い方ができるようにする

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

必要に応じて多様に使える続き間空間

京町家は、ふすまや障子といった簡単に取り外せる建具や、つい立てや屏風といった「しつらい」の道具類等により、必要に応じて多様にその空間を使えるようになっています。

家族の年齢や世帯構成の変化に応じて使い方を換えられるほか、様々な用途で使うことも可能であり、現在でもすまい以外に、店舗やシェアオフィスなど様々な活用方法で使い続けられています。



ふすまを開けて大空間としての利用もできます

とりいれかた

引き戸で部屋を仕切る

引き戸は、開け放つことができるので、必要に応じて空間を一体的に使ったり、閉め切って個室として使うこともできます。



可動する棚や壁を設ける

可動する棚や壁を設けることで、将来の家族構成やライフスタイルの変化に合わせて、柔軟に間取りを変えることができます。



柔軟な変更ができるため、
長く使うことができ経済的です！

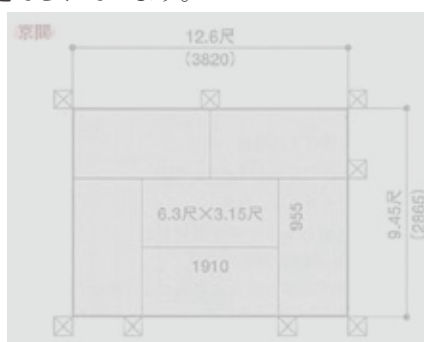
4-5 建具や部材を再活用できるように配慮する

ここが京町家！—伝統的な京町家ではこんな工夫をしています—

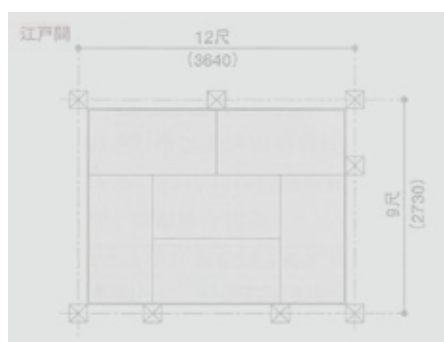
統一されたモジュール

京町家では寸法（モジュール※）が統一されており，畳や建具などの再利用や入替えが簡単にできるようになっています。

※京町家は，畳の寸法（6.3 尺× 3.15 尺）を基準として，部屋の大きさ，柱の位置を決める内法制の寸法ルールで建てられています。



京間＜畳割り（内法制）＞
畳に合わせて柱間隔を決める。
（畳の寸法はすべて同じ）



江戸間＜柱割り（芯々制）＞
柱間隔を固定して畳のサイズを調整

古いものを大切に使う

職人さんが手作りで造った昔の建具や手すきガラスなど，古建具には高品質な素材や高い技術力が詰まっており，和の繊細な意匠を楽しむことができます。

既存の建具等を再利用することで，新しく建具をつくるよりも，安くできることもあります。



とりいれかた

古建具を活用してみる

職人さんが手作りで造った古い建具や手すきのガラス等，良質で貴重なものを再活用することで，環境面に優しいだけでなく，愛着をもって大切に使うことができます。

良質な素材を使ったり，寸法に配慮する

使い捨てではなく再活用できるように，良質な素材を使ったり，寸法に配慮してみましょう。

指針 5 | 和の技術を感じる

背景
ねらい

京町家は、木はもちろん、土や紙などの自然素材を用い、「伝統構法」と呼ばれる日本伝統の工法と、職人たちが長年にわたって受け継いできた様々な伝統技術によって作られており、地球環境や健康への関心の高まりとともに、再び注目されています。

瓦や土壁は、緩やかに統一された京都の美しい景観を作り出している大きな要素の一つであり、耐久性や耐火性にも優れています。

木組み、柱、梁の現しの造形は美しく、また、格子や木割り等の繊細な意匠は、日本人の美意識を育んできました。

また、木、畳、土壁や和紙を用いた障子といった自然素材を室内に用いることにより、温かみのある空間を作り出すとともに、快適な湿度の確保など、室内環境を向上させます。近年、日本人の生活様式の変化や建築技術の近代化の中で、伝統的な技術を使用する業務は減少し、さらに、技術者の高齢化などにより、職人の減少が顕著となっています。

「(仮)新築等京町家」では、伝統技術・技能を活かした建築や空間を推奨するだけでなく、伝統ある技術を現代に継承することも重要な役割の一つと考えています。

指針を達成するための工夫

- 5-1 外観に伝統技術・技能を活かす
- 5-2 内装に伝統技術・技能を活かす
- 5-3 伝統構法での新築も考えてみる



伝統的な技術を用いて建てられた新築住宅（仮）

5-1 外観に伝統技術・技能を活かす

ここが京町家！—京町家の外観に見る伝統技術の例—

和瓦、格子、土壁等の伝統技術・技能

和瓦

瓦の端をまっすぐ切り落としたような「一文字瓦」や、瓦の先に小さな丸を付けた「饅頭瓦」等の種類があります。

瓦を葺く工事は瓦屋さんの専門になります。



一文字瓦



饅頭瓦

格子

商売の種類によって、格子の幅や間隔に色々なバリエーションがあります。建具屋さんが製作・取付を行います。

土壁

竹小舞で下地を作り、左官屋さんが土を塗って仕上げます。



とりいれかた

伝統技術・技能を活かす

伝統的な意匠には、様々な職人さんの技術が詰まっています。

昔ながらの伝統的意匠を継承する方法以外にも、現代的なデザインに伝統技術を取り入れる工夫もぜひ考えてみてください。



5-2 内装に伝統的な技術・技能を活かす

ここが京町家！—京町家内部に見る伝統技術の例—

木と土壁の空間

天井仕上げ

竿縁天井，網代天井，格天井等，部屋の格式に応じて様々な様式の天井があります。

障子

繊細な意匠や光のうつろいが楽しめます。建具の製作や取付は建具屋さん，障子や襖の紙を貼るのは表具屋さんが専門です。



土壁

左官屋さんが^{こて}鏝を使って仕上げます。

畳

日本では昔から床座の暮らしをしてきました。畳は快適に座るための上等な家具のようなものです。引っ越しの際には畳を持っていくこともありました。

とりいれかた

土壁等を活かす

土壁には空気をきれいに保つ効果や室内の調湿効果が，漆喰壁には防水性や抗菌性があると言われており，快適な室内環境を生み出すことが可能です。

また，現代の技術では，土壁に断熱材を入れることが可能です。



とりいれかた

畳を活かす



畳は表面に弾力性があり，足腰への負担が少なく，直接座ったり寝転がったりすることもできます。

い草は自然素材であり，また転んでも衝撃を吸収してくれるので，小さな子供がいても安心して遊ばせることができます。

フローリングと比べ，断熱効果，調湿効果があります。

また防音効果もあるので，階下への騒音が気になる共同住宅にもオススメです。

◇置き畳を活用する

手軽に畳を取り入れる方法として，置き畳を使う方法もあります。模様替えやレイアウト変更も気軽にできます。

◇小上がりの畳スペースをつくる

リビングなどの床よりも，一段高くして畳スペースを設けると，椅子代わりに腰掛けたり，畳下を収納にすることもできます。

◇現代的な和室をつくってみる

床の間のついた伝統的な座敷にこだわらず，新しい材料や考え方を取り入れた，現代の和室を提案してみるのも1つです。

◇本格的な座敷をつくってみる

伝統的な座敷のスタイルは，床の間や材料の格式に応じて，真・行・草の3種類に分けられます。本格的な座敷があると，接客空間として利用できるほか，お茶やお花などの伝統文化を楽しむこともできます。

5-3 伝統構法での新築も考えてみる

ここが京町家！—京町家内部に見る伝統技術の例—

木組みと土壁による柔らかい構造

京町家は、「伝統構法」で建てられています。伝統構法には、美しい木組みの魅力があります。

また、現在、一般的に建てられている木造は「在来構法」ですが、伝統構法と在来構法では、地震に対する構造の考え方が異なります。

伝統構法は、柱や梁などの木組みと土壁の粘りで、地震等の力を吸収することで、倒壊を防ぐという考え方の構造です。そのため、揺れは大きくなりますが、かなり傾いても粘り強く耐えます。

在来構法は、筋かいや合板の壁によって、地震等の揺れに対して固く抵抗して、建物の変形を防ぐという考え方の構造です。

とりいれかた

伝統構法を活かす

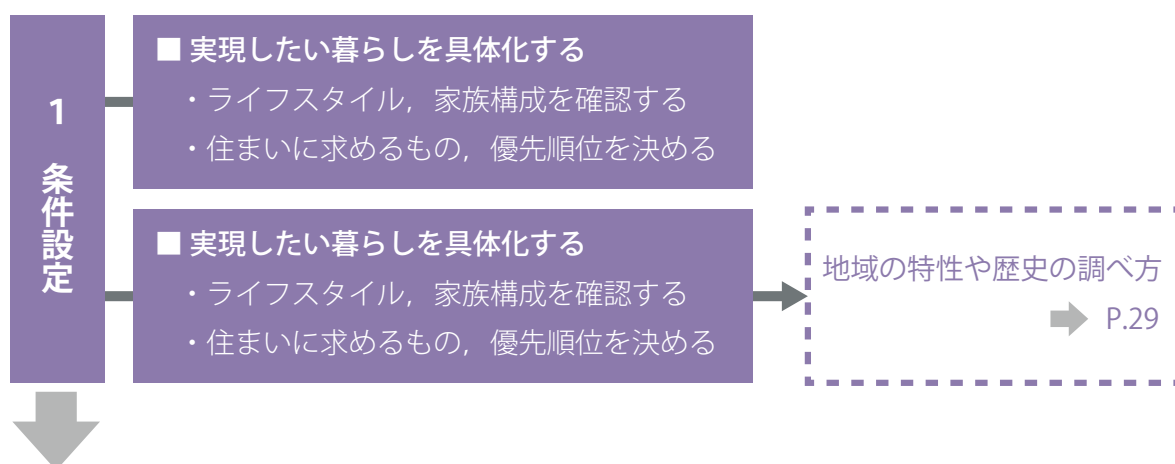
伝統構法と在来構法の特徴を踏まえたうえで、好みによって伝統構法も選択肢として選べるように考えてみましょう。

昭和25年以の建築基準法の制定によって、新たに伝統構法の建物を新築することが難しくなりましたが、現在は、限界耐力計算をすることで、伝統構法の新築が可能になっています。

京都市のHP「京都市情報館」では、「伝統的構法による木造建築物の新築工事の設計事例」を紹介しています。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000161706.html>

計画フロー



		関連する指針	工夫の例	頁
2 建物のプランニング	平面計画 (建物配置・間取り)	□ 指針 1：まちに暮らす 隣地の状況等を踏まえて 建物配置等を計画する	隣との連担に配慮する	
			開口部の位置などに配慮する	
			まちと緩やかにつながる仕掛け をつくる	
		□ 指針 3：四季や自然を楽しむ 四季や自然を楽しめるよう 工夫する	風や光, 自然が感じられる庭を設ける	
			建物内の風通しや日射を うまくコントロールする	
		□ 指針 4：大切につかう 大切に長く使い続けられる よう工夫する	多様な使い方ができるようにする	
			メンテナンスをしやすくする	
	立面計画 (外観 デザイン)	□ 指針 2：場所になじむ 地域特性や歴史を踏まえて 設計する	地域特性を踏まえたデザインにする	
			町並みのもつスケール感や昔ながらの 地割に配慮する	
		□ 指針 4：大切につかう 大切に長く使い続けられる よう工夫する	木や土壁等の自然素材を使う	
			経年変化を楽しめる工夫をする	
		□ 指針 5：和の技術を感じる 伝統技術・技能を活かす	外観に伝統的な技術・意匠を活かす	
	内装計画	□ 指針 3：四季や自然を楽しむ 四季や自然を楽しめるよう 工夫する	季節の飾りや 草花が飾れる場所を設ける	
		□ 指針 4：大切につかう 大切に長く使い続けられる よう工夫する	木や土壁等の自然素材を使う	
			経年変化を楽しめる工夫をする	
			古建具や古材の利用も考える	
		□ 指針 5：和の技術を感じる 伝統技術・技能を活かす	内装に伝統的な技術・意匠を活かす	
	構造計画	□ 指針 5：和の技術を感じる 伝統技術・技能を活かす	伝統構法での新築も考えてみる	
	設備計画	□ 指針 2：場所になじむ 地域特性や歴史を踏まえて 設計する	設備機器も町並みに調和させる	
		□ 指針 4：大切につかう 大切に長く使い続けられる よう工夫する	メンテナンスしやすくする	

コラム 2 タイトル

コラム

コラム



3

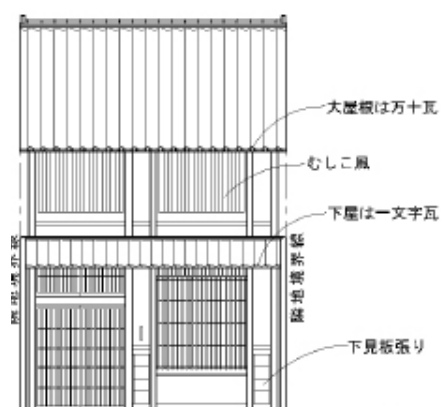
新町家設計事例



設計事例紹介

設計事例紹介

設計事例① 伝統的な空間を取り入れたケース



外観：通り庇や格子，和瓦など，伝統的な京町家の意匠
内部：和室や土間などの伝統的な空間を取り入れる

設計条件

- 敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
間口4.55m，敷地面積90㎡
- 世帯想定：年配夫婦の2人暮らし
- 車無し

設計事例② 現代的な意匠とするケース



外観：鋼板屋根を用いるなど，現代的な意匠

内部：くつろげる畳スペースなど町家の知恵を手軽に取り入れる

設計条件

- ・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
間口4.55m，敷地面積90㎡
- ・世帯想定：ファミリー
- ・駐車スペース有り

②' 現代的な意匠とするケース（職住共存版）

職住共存（1階が店舗）の3階建てモデル

設計条件

- ・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
間口4.55m，敷地面積90㎡
- ・世帯想定：ファミリー
- ・車無し

設計事例③ 敷地に余裕があるケース



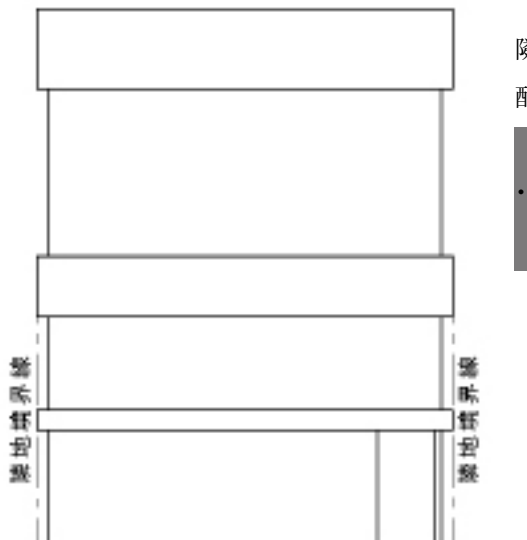
③ 敷地に余裕のあるケース（郊外等）

余裕のある敷地規模を想定した住宅

設計条件

- ・敷地条件：周辺に昔ながらの和風建物が比較的多く残る地域
間口8m，敷地面積128㎡
- ・世帯想定：ファミリー
- ・駐車スペース有り

設計事例④ 集合住宅に適用したケース



隣地に既存京町家が立地する敷地での集合住宅の外観・配置計画

設計条件

- ・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
間口 11m，敷地面積396㎡

土間を取り入れた住まい方

伝統的町家の再構築

■伝統的京町家の意匠を現代の住まいに取り入れた住宅

京町家の伝統意匠を現代の住宅に取り入れつつ、住みやすさを実現するとともに、ご近所付き合いなどができる、交流の空間を共存させた土間のある「現代版京町家」

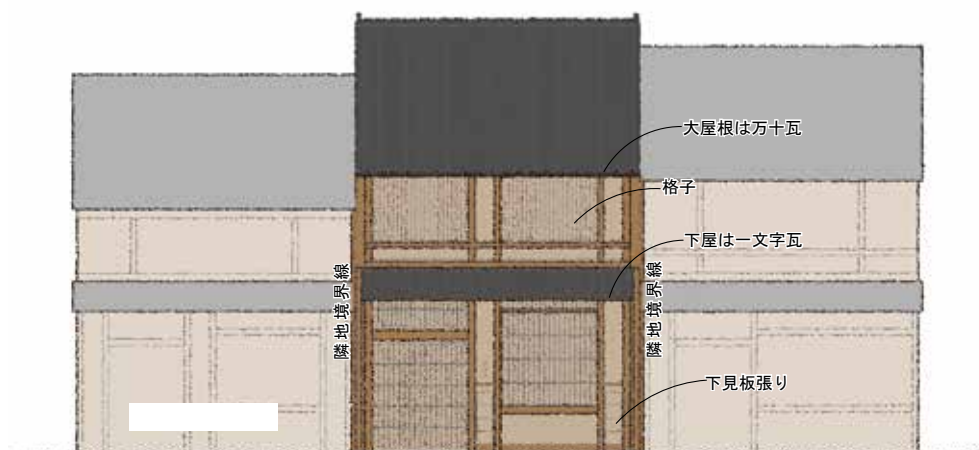
■コンパクトな居住空間

伝統的な町家の空間から、生活に必要な要素を抽出、再構成し、
伝統を踏まえながらも、必要なものが近くにあるコンパクトな住み
方が実現した居住空間を目指しました。

○住み手の設定

熟年夫婦の2人暮らしを想定しています。
ゆったりとした暮らしをしながら、ご近所
づきあいを楽しみたい方にお勧めです。





立面図

工夫したポイント

まちに暮らす

通りに面した部屋をご近所や仲間と歓談する空間を設け、外向きに開かれた空間とすることで、周辺との繋がりを意識しています。

四季や自然を楽しむ

居間から庭が近くに感じられる造りにして、部屋の中からでも自然を身近に感じさせる暮らしができます。

大切に使う

引戸を基本にした間仕切りとすることで、部屋と部屋のフレキシブルさを高め、多用途に使える空間をつくりだしています。

場所になじむ

隣接する町家の意匠に配慮して、通り庇や格子などの意匠を用いることで、隣との繋がりが、統一感のある町並みにすることを意識しています。

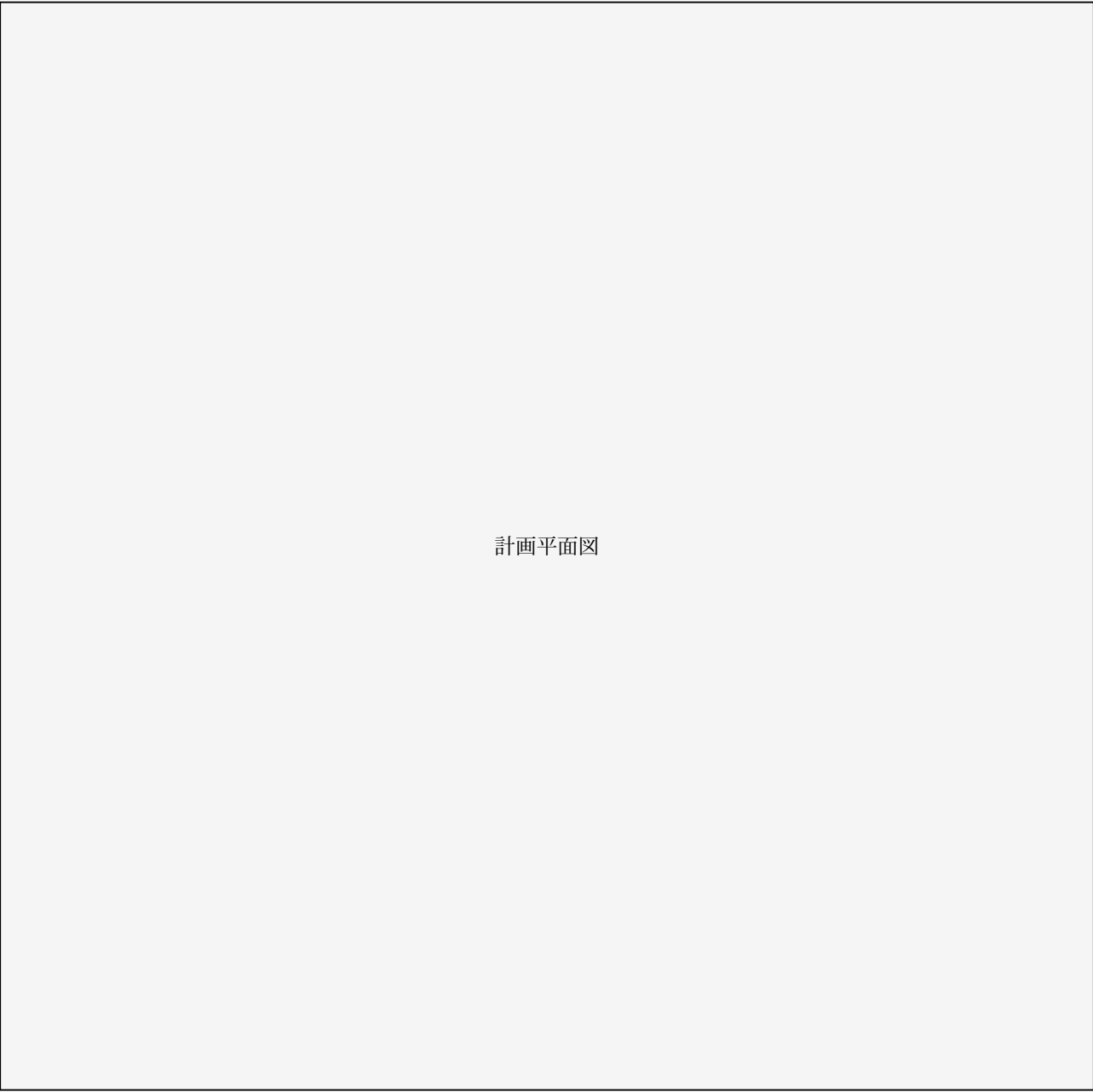
技を感じる

木材を室内に多く使うことや土壁等を使うことで、調湿効果や抗菌効果を高めた室内環境にしています。



■ プランデータ	
敷地面積	90.00㎡
建築面積	53.83㎡
	2階 25.67㎡
	1階 53.41㎡
延べ床面積	79.08㎡
参考家族構成	大人2人
設計要件	
・ 想定敷地（上京区 周辺）	
・ 用途地域（準工業地域）	
・ 指定建ぺい率（60%）・指定容積率（200%）	
・ 防火規制（準防火地域）	
・ 景観規制（歴史遺産型美観地区）	

設計条件・設計意図の解説



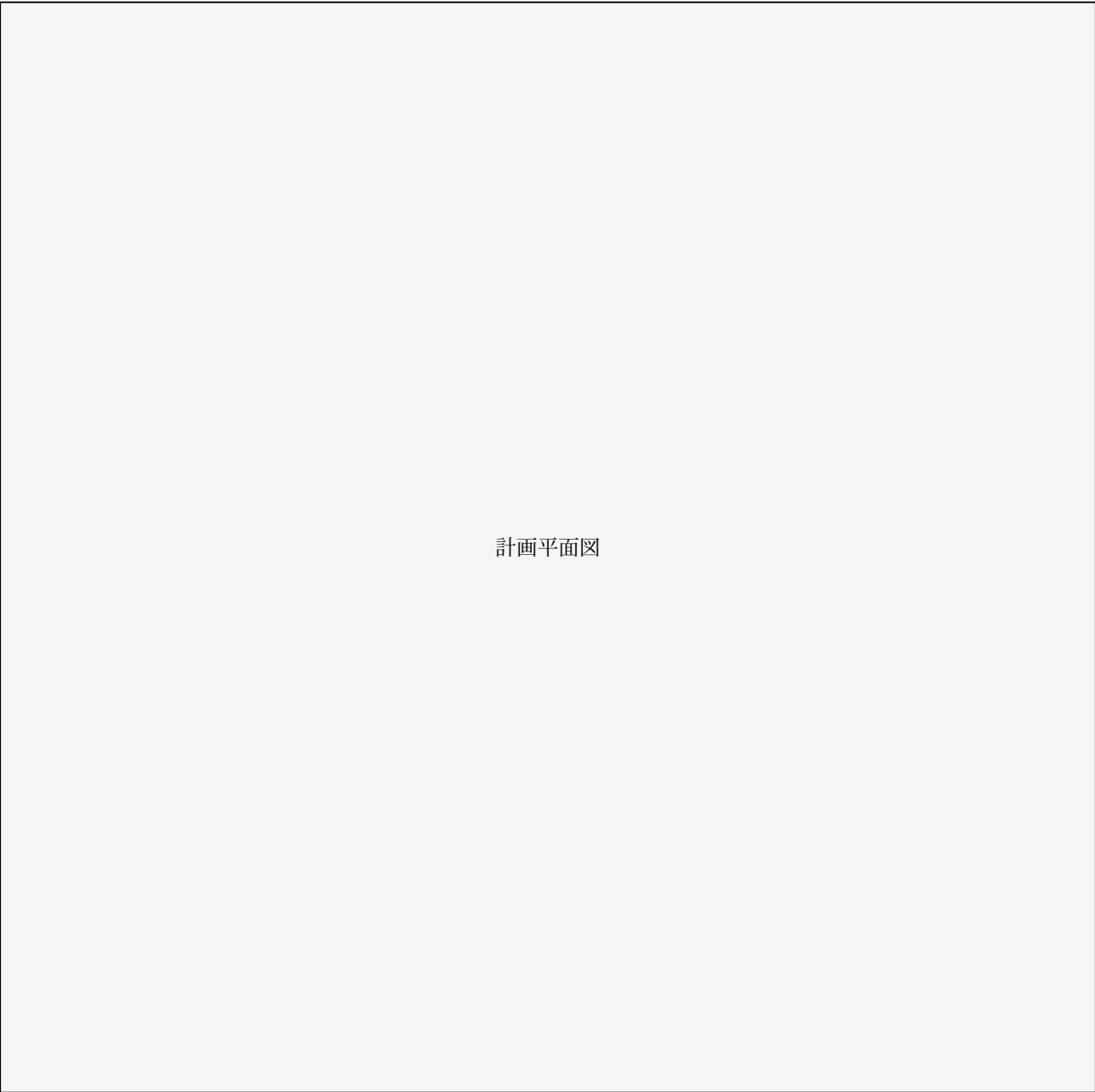
計画平面図

立面図・詳細図等

設計内容の説明

設計者の紹介

設計条件・設計意図の解説



計画平面図

立面図・詳細図等

設計内容の説明

設計者の紹介

設計条件・設計意図の解説



計画平面図

立面図・詳細図等

設計内容の説明

設計者の紹介

検討部会について

奥付

